

日本遺産サミットin小松 カウントダウン連載第1回 こまつの魅力再発見!

11月13日(土)、14日(日)に日本遺産サミットin小松が開催されるのに合わせ、今月号から3回のカウントダウン連載です。

市では地域住民や民間企業、行政が一体となって日本遺産ストーリーを構成する文化財の保全や活用、歴史や文化の継承、伝統産業の活性化などに取り組んできました。

サミット開催をきっかけに、こまつの歴史・文化を知って、世界に誇れるわが町こまつ魅力を再発見しましょう。

問い合わせ

観光文化課
☎24・8130

全国の認定地域と共に 日本遺産を発信

日本遺産の認定は全国47都道府県に広がっています。日本遺産の浸透と国内外に向けた情報発信のため、日本遺産認定地域などで構成される日本遺産連盟と文化庁がタッグを組み、平成28年度から「日本遺産サミット」が開催されています。これまで岐阜・京都・高岡・高知・今治で行われ、小松で6回目となります。

全国の魅力的な 歴史文化に 触れられる2日間

小松で開催するサミットでは「日本遺産で輝く!地域と人とのづくり」をテーマに、様々な切り口で日本遺産の魅力や取り組みを伝えます。また、市内の日本遺産拠点地域をサテライト会場とし、全国に発信します。2日間を通して、小松の歴史や文化の魅力を再発見する機会とし、コロナ終息後を見据えた国内外からの交流人口の拡大や地方創生につなげていきます。

小松市は2つのストーリーが認定されているよ!



日本遺産とは

地域の歴史的な魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。ストーリーを構成する様々な文化財を活用して国内外へ発信していくことで、観光振興や地域の活性化・ブランド化を図ることが目的です。

平成27年度から令和2年度までに、全国で104のストーリーが認定されています。



JAPAN HERITAGE

関連イベントも盛りだくさん!



気になる内容を 少しだけご紹介

詳細は
10・11月号

- ・シンポジウム ・公開講座
- ・日本遺産PR展示、体験ブース
- ・日本遺産&小松の伝統芸能披露
- ・海外へライブ配信
- ・日本遺産映像上映
- ・グルメブース ・エクスカーション
- ・サテライト会場で小松の日本遺産PR
- ・10月から順次、博物館など市内5館で記念特別展を開催

いろんな日本遺産に
出合えるね



「珠玉と歩む物語」小松

時代の流れの中で
磨き上げた石の文化

弥生時代の碧玉の玉作りを始まりとして、小松の人々は2300年にわたり金や銅の鉱物、メノウ・オパール・水晶・碧玉の宝石群、良質の凝灰岩石材、九谷焼原石の陶石など、石の資源を見出してきました。

現代の技術でも再現が困難な高度な加工技術を時代のニーズに応じて磨き上げ、ヤマト王権の諸王たちが権威の象徴としてこぞって求めるなど、人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を築き上げてきました。

現在も稼働する滝ヶ原の石切り場を始めとし、市内に25カ所以上も残る石切り場跡、公園整備された遊泉寺銅山跡、町に残る石蔵など、今も石の町の風景を見ることが出来ます。



▲観音下石切り場

荒波を越えた男たちの 夢が紡いだ異空間

北前船寄港地・船主集落



▲安宅住吉神社 船絵馬

北前船は、江戸中期から明治にかけて、北海道と大阪の間を往来した廻船です。各港で積荷を売買しながら大きな利益を生み出し、全国の寄港地・船主集落に大きな繁栄をもたらしました。

寄港地として発展した安宅港には全国から様々な商品が運ばれ、船によって川や加賀三湖を介して南加賀地域に広く流通していました。また、絹織物や九谷焼などの特産品が全国各地へと運ばれました。今も安宅には随所に歴史的遺産が残ります。また、航海の安全と繁栄を願う祭礼が、北前船の歴史と伝統を今に伝えています。



ここでしか聞くことができないトークショーや対談のほか、絵付けワークショップも開催! 詳しくは公式サイトをご覧ください。



九谷焼の芸術祭 クタニズム 9/18(土) KUTANism 11/14(日)

「石の文化」を構成している「九谷焼」を見る/知る/体感する芸術祭。5つのプログラムを通して、九谷焼とその産地である小松市・能美市の魅力をリアルとオンライン両方でお届けします。

- EXHIBITION(エキシビション)
九谷焼作家の作品99点を2カ所のリアル展覧会とオンラインエキシビションで鑑賞
- LIBRARY(ライブラリー)
秋元雄史氏が自ら現地に足を運び対話する中で九谷焼の物語を再発見していく連載シリーズ
- GUIDE TOUR(ガイドツアー)
九谷焼と産地を旅するガイドツアー
- MOVIE(ムービー)
産地の魅力を届ける映像アーカイブ
- SHOP(ショップ)
地元のお店が集まるショッププログラム

問い合わせ クタニズム実行委員会事務局(観光文化課内) ☎24・8130

弥生時代屈指の大規模拠点集落

今から約二千数百年前に誕生した八日市地方遺跡は、約三百年間にわたって繁栄した、ものづくりと交流の拠点集落だったことが明らかになっています。ものづくりの代表的なものは、玉生産と木器生産でした。

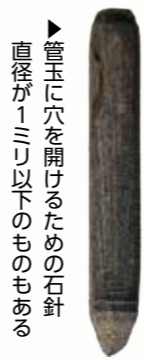
日本海を行き交う 弥生の宝石・碧玉

緑色の「碧玉」は、弥生時代から玉の素材として使用が始まりました。那谷・菩提・滝ヶ原地区に質のよい碧玉が産出したことから、弥生時代中期には全国最大規模を誇る碧玉製の管玉生産が行われたとみられます。

超絶技巧の匠こそが生み出せる極細の管玉は、糸魚川産のヒスイで作る勾玉と共に日本海沿岸を行き交い、西日本を中心に北部九州までもたらされました。



▲八日市地方遺跡出土 碧玉製管玉の工程品と工具類



▶管玉に穴を開けるための石針 直径が1ミリ以下のものもある



▶管玉の断面 石の両側から穴が開けられていることが分かる



▲八日市地方遺跡出土 碧玉製管玉とヒスイ製勾玉



▲八日市地方遺跡出土 木製容器と匙

膨大な木製品が語るもの

八日市地方遺跡からは、一万点を超える木製品が出土しています。遺跡の立地が低地であり、かつ湿潤な地層にパックされたことから、従来の遺跡では残りにくい木製品が良好な状態で見つかりました。木製品は製品だけではなく、加工途中のものも出土していることから、どのような工具を利用して製作したのかも検証できます。



◀加工途中の木製匙 鋭利な鉄器加工痕が見える



▲八日市地方遺跡出土 磨製石剣と柄付き鉄製ヤリガンナ

鉄器の登場

弥生時代に導入された最初の鉄器は、中国・戦国時代に燕からもたらされたものと考えられます。鑄造によって製作された初期の鉄斧は、弥生時代中期では完成品は数が少なく、ほぼ北部九州に限定されます。しかし驚くべきことに、八日市地方遺跡からは、日本最多の鑄造鉄斧の柄が出土し、東アジア最古の柄付き鉄製ヤリガンナも近年の調査で発見されました。

木工の匠技

弥生時代後期になると、八日市地方遺跡は終わりを迎え、人々の活動の拠点は漆町、一針町、千代町などの梯川流域や、月津台地へと変化します。鉄製工具の使用が進み、花弁高杯のように更に洗練された木製容器が登場しました。

腕輪形石製品の誕生

古墳時代に入ると、石川県内のおちこちで玉作りが行われるようになりました。鉄製工具を用いて作る管玉に加えて、新たに南海産貝製腕輪を原形とする腕輪形石製品が作られるようになりました。これらはヤマト王権が主導する古墳社会の中で、近畿地方を中心に拡がりました。加賀産碧玉を使用した新たな北陸ブランドの誕生です。



▶島の山古墳(奈良県) 埋葬施設を覆う大量の腕輪形石製品 (奈良県立橿原考古学研究所提供)

埋蔵文化財センター秋季展

日本遺産サミット記念特別展

碧玉がもたらした木工の匠

日本海交易でもたらされた最先端技術と利器の下、花開いた木工の匠を紹介します。

とき 10月2日(土)~12月12日(日) ※水曜日、祝日の翌日は休館
ところ 埋蔵文化財センター
観覧料 100円、高校生以下無料



▲白江念仏堂遺跡出土 木製花弁高杯

フォーラム 古墳時代の碧玉

10月3日(日) 13時~16時20分
公会堂4階 大集会室(ライブ中継も同時開催)

- 内容
- 特別講演会[13時10分~]
「腕輪形石製品の誕生」
—古墳造営ポトラッチの道具建て—
講師/北條芳隆(東海大学文学部教授)
 - 基調報告[14時10分~]
「『碧玉』が語る加賀の玉作り」
—滝ヶ原碧玉原産地遺跡の意義—
講師/西田昌弘(石川県教育委員会事務局文化財課)
 - パネルディスカッション[14時50分~]

申込方法 9月11日(土)~10月1日(金)に電話、FAXまたはメールで
申込先 埋蔵文化財センター
☎47・5713 FAX47・5715
✉maibun@city.komatsu.lg.jp

フォーラムで詳しいお話が聴けます!

古墳時代研究の第一線で活躍する研究者

東海大学文学部
北條 芳隆 教授



古墳時代に入り、乳白色の南海産貝製腕輪の代用として緑色の碧玉製腕輪は誕生します。この石製腕輪の誕生には、どのような経緯があったのでしょうか。

古墳造営ポトラッチ(寒冷化を生き抜くためのサバイバルシステム)の登場という私の見解に併せて考察していきます。



◀原形となった南海産貝(ホウ)製腕輪の再現品(右)と加賀市片山津玉造遺跡出土の腕輪形石製品(左)

参加費 無料

定員 40人 (先着順)